

食事等提供方法の業務改善と障害者雇用の促進

社会福祉法人 永甲会

住所/TEL 四日市市采女町字森ヶ山418番の1 / (059) 348-7760

URL/E-mail <http://www.eiko-kai.jp> / hiroi@eiko-kai.jp

経営理念

理念

- 1) 利用者さんの立場に立って考えます。
- 2) 利用者さんの生きてこられた人生、価値観を理解します。
- 3) 利用者さんの声、希望に耳をかたむけます。
- 4) 利用者さんの気持ち、体を傷つけるようなことは絶対しません。
- 5) 施設は孤立せず、家族・地域との連携を考えます。
- 6) 法律その他基準に従って運営を行ないます。
- 7) 福祉事業の変化と改革の先駆者となるよう、常に組織・運営を見直します。

事業内容

特別養護老人ホーム（50名）1カ所 併設短期入所（10名）
通所介護（45名）1カ所
地域密着型認知症通所介護（10名）1カ所
居宅介護事業所1カ所
在宅介護支援センター1カ所
障害者支援施設（77名）1カ所 併設短期入所（3名）
生活介護事業所（40名）1カ所

収入

（法人全体）
平成22年度決算

①社会福祉事業事業	1,133,155,432円
②公益事業	23,135,147円
③収益事業	18,406,974円
合計	1,174,697,553円

従業員数

（法人全体）

206名（非常勤含む）

当面する経営課題

- ・人材確保と育成（リーダー育成）
- ・地域との連携（災害等も含め）
- ・トータル（高齢、障害、児童）福祉ケアに向けての事業展開
- ・ボランティアコーディネートの必要性
- ・各セクション（事業）ごと収支バランスコントロールの管理者意識向上

発表する取組みに着手した理由、背景

入居者の方の暮らしを見つめ直し、職員が入居者情報をより多くもつこと、ケアに目が行き届くようにすること、そして、暮らしが感じてもらえるよう職員介助の仕方を全体介護からユニット化（4ユニット）を図る。日々の暮らしをもう一度考え、排泄ケア・方法、水分のとり方等についてその人の暮らしにあった援助の仕方、そして、食事をより美味しく楽しく、ゆっくり食べてもらえるように食事提供をグループ化（全体から2グループ）行った。また、グループ化することで誤嚥や誤飲、誤薬などの職員リスク管理や入居者の自立心の向上が伺えた。

美味しく楽しく、ゆっくり食べてもらうためには、食事場面が業務化にならなければならない、業務委託では委託業者への配膳下膳時間や融通面の問題がでてきた。そのため、応用的に対応できる仕組み作りを考えた結果、業務委託から自社化する提供方法の精査することにした。同法人では特別養護老人ホームでは先行してクックチルド方式を採用しているが、現状の当施設ではクックチルド方式の対応では無駄も多く現場職員の対応に問題が出てくるのが予想された。当施設としての新たな仕組み作りとして模索し辿り着いた方法がクックサーブ方式であった。

クックサーブ方式は、調理されたものが運ばれそれをピッキングし、提供するものである。施設として必要なのはピッキングする作業と用意、洗浄であり、今までの調理作業によるガスの使用や食材の冷凍蔵庫貯蔵、残飯の軽減など光熱水費の削減が予想できること、委託業者に支払う人件費においても必要な人数が減らせること、委託料として支払う費用がなくなることなど高齢者施設のみならず障害者福祉も経営的に厳しい時代に突入している現在で施設としてもメリットも多くでてきた。

また、障害者施設として、障害者雇用についても率先して行っていく法人方針があり、厨房作業が単純化したことで障害者の方にも働ける環境が整い、地域・在宅の障害者の方の障害者雇用促進とできるだけ多くの障害の方が働く喜びを感じてもらえるよう、採用計画を図った（既存障害者男性職員1名、知的障害女性職員2名、精神障害者男性職員1名 計4名採用）。

そして、厨房職員が当施設職員になることで融通が利くようになり、現在の『食事』から『ごはん』と入居者さんが云えるよう、ごはんを炊くことをユニットで行う試みをしていく。ごはんの炊ける音・匂いを感じてもらうこと（寝たきりの方への五感の刺激など）、炊けるまで待つ、確認するという普段の暮らしを感じてもらうことなど施設＝上げ膳据え膳ではなく、施設＝生活（暮らし）にしていくことが今後の当施設として障害者自立支援施設として取り組んでいく。

発表する取組みの現時点での効果

- ・業務委託費、給食費の軽減
- ・障害者雇用の定着：障害のもっている方たちが、定着し安心、向上的に業務を行っている。
- ・障害者実習生の受け入れ：社会福祉協議会と連携し、障害をもっている方たちの社会体験や将来、社会へ再度挑戦意欲向上に向けての取り組みを行っている。
- ・業務的から家庭的な食事風景そして、笑顔があり、団欒しながらゆっくりとした時間が経過している。
- ・入居者の皆さんと職員との共生意識が向上している。
- ・誤嚥等の事故の軽減

食事等提供方法の業務改善と 障害者雇用の促進

平成23年9月29日
障害者支援施設 エビノ園
施設長 廣井 孝司

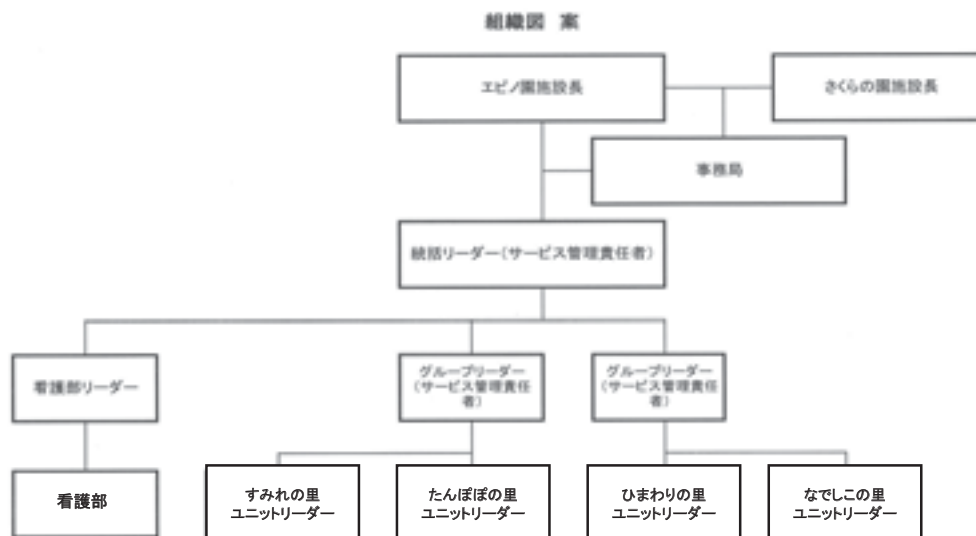
1. 法人所在地等



2. 法人沿革

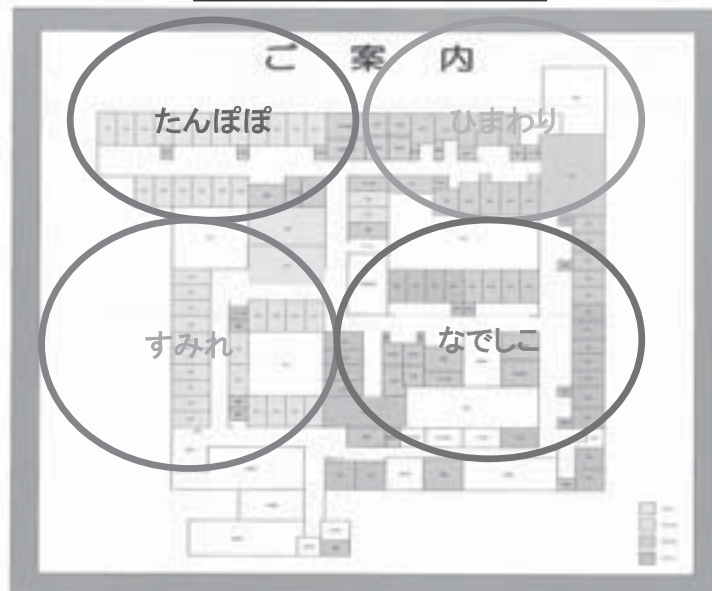
- 平成11年 通所介護
在宅介護支援センター
- 平成12年 介護保険スタート
単独型通所介護
在宅介護支援センター
居宅介護事業所
- 平成17年4月1日 特別養護老人ホーム 開所
- 平成18年4月1日 地域密着型認知症通所介護事業 開所
- 平成21年4月1日 社会福祉法人永甲会・大智長寿苑 法人合併
障害者支援施設
生活介護事業所
- 平成22年 障害者支援施設
スプリンクラー改修＋施設内改修(全室個室、風呂場改修)

3. 組織図



4. 障害者支援施設 平面図

施設平面図



5. グループケアの目的

- 1) 職員の人事管理徹底
- 2) 職員の育成とキャリアパスが出来やすい
- 3) 風通し良く, コミュニケーションがし易い
- 4) 職員の固定化によりケアの質向上
- 5) 会議の内容充実(ケアに重点)
- 6) 権限の委譲により、自主的グループケア
- 7) 住まいの環境づくり(潤いのある、いやしのある)

6. ケア、情報の統一化のためPC化

- 1) 事務、介護のPC化とオンライン化
- 2) 介護ソフトの導入(分析を中心)
- 3) 情報の統一と徹底のため役職者とメール化
- 4) ナースコールの4分割、PHSの使用



7. 個別ケアに向けて

● 24時間シート活用の活用

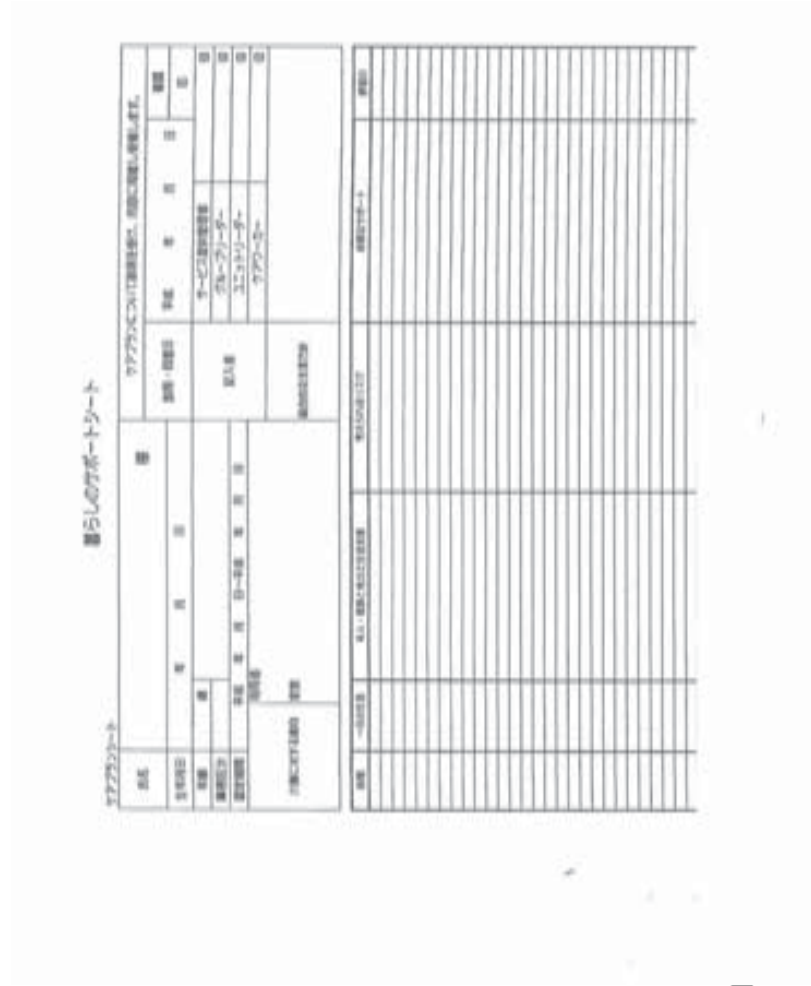
00 0000-01 - 事業所生活支援士24時間シート

時間	00:00	01:00	02:00	03:00	04:00	05:00	06:00	07:00	08:00	09:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00
ケア																									
食事																									
入浴																									
排泄																									
移動																									
その他																									

- ・その人らしい24時間の暮らしのサポート
- ・24時間支えるためのポイントの整理
- ・職員優先(業務優先)ではなく、その個人優先。
- ・チームとして、統一したケアの共有(介護、看護、栄養士、事務 記入)

8. 個別ケアに向けて

● 暮らしのサポートシート(ケアプラン)



- 安心できる統一ケアに向けて、情報の共有
- 施設ケアだけでなく、暮らしの中のサポート
- チームとして、取り組むサポート

9. 個別ケアに向けて

● モニタリング

モニタリング 暮らしのアセスメント表

暮らしの課題	BALANCE		SUPPORT		MONITORING	ACTION	EVALUATION
	現状	目標	支援	計画			
収入							
支出							
貯蓄							
資産							
債務							
健康							
生活							
教育							
介護							
その他							

注：モニタリングは、定期的に行われ、必要に応じて調整が行われる。

● 本人、家族との確認、修正

● 暮らしの中での新たな目標、目的の再確認

● 要望、将来的目標の確認

10. リビング(暮らしの中心)

● 各ユニットリビング

★
たんぽぽ



★
すみれ



★
ひまわり



★
なでしこ

11. その人らしい暮らしに向けて

● その人らしい暮らしって(笑顔はすばらしい)



12. お風呂

- 集団的入浴から、ゆっくりその人ペース個別お風呂へ



★個別浴槽



★特殊浴槽

13. 楽しみ(日々の活動)

- エビーネ(活動の日)・ユニット活動



14. 日帰り旅行 企画

- 皆さんの行きたいところへ行きましょう

★中部国際空港



★東山動物園



★名古屋水族館



★ブルーオネット



15. クックサーブの流れ



納品



↓ 再加熱



← ピッキング



16. 給食業務 変更による収支

● 給食業務 収支状況比較

平成20年度	平成22年度	
業務委託費	業務委託費	
24,776,287(人件費含む)	18,871,051(職員人件費含む)	
給食費	給食費	
25,108,721	29,209,434	
水道光熱費	水道光熱費	
8,889,924	8,467,996	
燃料費	燃料費	
3,524,125	2,133,462	
計	62,299,057	58,681,943 差額 -3,617,114

17. 給食業務 変更によるメリットデメリット

- 業務委託費の削減(人件費分減)
- 給食費は増(材料費増)
- 水道光熱費減(準備に係る費用減)
- 燃料費減(ガス等の使用減)
- 管理栄養士による栄養面の重視化報酬増
(管理栄養士加算、栄養マネジメント加算)
- トータルの経費削減、報酬増

18. 障害者雇用(+高齢者雇用)

- 業務の効率化による障害者、高齢者雇用
- 時間配分(短縮)による安定雇用
- 仕事に対する意欲増(最低賃金以上給与)
(社協連携し、障害者実習生の受け入れ)
- 人件費の減
正職員1名、嘱託職員2名、障害職員3名、
高齢者職員2名

19. 障害を持っている方の仕事風景



20. 食事からごはんへ(炊飯、配膳)



21. 各ユニットでのごはん風景



22. 今後の課題

- 新たな障害者雇用の創出(障害者のある方への将来ビジョンに向けて)
- 保温冷車、トレー廃止に向けて
- ユニット内でのご飯、おかず他配膳に向けて
- 上記に向けての厨房職員の業務見直し
- 障害者の仕事の負荷(新たな業務に向けて)
- 寝たきりの方へのケア、食のあり方の検討
- 更なる経費等削減に向けて

23. おわりに

- 1) 職員と入居者の皆さんが共生意識をもつことが大事である(業務→暮らしのサポート)。
 - 2) 暮らし(家庭的)のイメージをもって取り組んでいくことが変革に繋がる(施設＝家に近づけることの職員意識の向上)。
- ※職員、入居者、障害者雇用職員が暮らしそして、地域(社会)を意識し、行動していくことが求められる。
- それが収支バランスにも影響を与える。